



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人：湯浅一郎／住所：〒223-0062 横浜市港北区日吉本町 1-30-27-4 日吉グリーンネ1F
TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替：00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座：横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.28

2011.7.15

2011年前半を振りかえる(第12回総会報告)

福島事態が問う大きな課題も見据えつつ、 核兵器の非人道性を訴え、 核抑止から抜け出そう

湯浅 一郎 (ピースデポ代表)



オバマ大統領のプラハ演説など、「核兵器のない世界」へのビジョンは世界的潮流となったが、マンハッタン計画に始まって70年近くにわたり、「核兵器に支配された世界」は、そう簡単に崩れそうもないという現実も、はっきり見えています。ここにきて、米国では、核兵器の備蓄や新型核兵器の開発につながる予算増、CTBTの批准の困難性など、「核兵器のない世界」とは裏腹の動きが相次ぎました。こうした時であればこそ、核兵器の非人道性を訴え、核抑止に依存しない道を打ち出すことが必要です。その最初の大きなステップとして、北東アジア非核兵器地帯を求める市民社会の世論をより大きくしていく努力がますます重要になっていきます。

第12回総会報告

そのような情勢の中で、2月27日、ピースデポは、恵比寿スバルビルで第12回総会を行いました。前日の26日、「武力は悲劇しか生まない―北東アジアに非核・軍縮の仕組みを」と題した総会記念イベントを行いました。第1部では、韓国からハンギョレ新聞大記者のキム・ヒョスンさんと、元参議院議員の犬塚直史さんをお招きし、北東アジアをめぐる情勢に関する講演をお願いしました。第2部では、日弁連憲法委員会委員長の村越進さん、明治学院大ピースリングの高久はるかさんら

をパネラーに、市民社会の役割について議論していただきました。

総会には、和歌山、山形などの遠方を含め18名の正会員が参加されました。松井和夫さんの議長のもと、総会の成立を確認し、10年の事業報告と収支決算報告を田巻副代表が行い、質疑の後、採決が行われました。その後、2011年度事業計画案と収支予算案を湯浅が提案し、活発な質疑討論のあと、方針が採択されました。総会で決まった主な事業計画を2ページに示します。

事業計画では、核兵器廃絶に向けた国際的な世論形成への寄与において、北東アジア非核兵器地帯を促進させる動きとしては、日韓NGOの連携を前提として、市民、自治体、議員の協力体制を築くことが重要です。北東アジア非核兵器地帯を支持する国際署名への賛同は、昨年末には広島・長崎市長ら8市長でしたが、その後、大きく広がって104人(4月19日現在)になりました。この広がりを、NGOや議員にも広げていくことが当面の大きな課題です。また、米国の年1兆ドルもの財政赤字の継続を背景に、軍事費をめぐる動向に関する調査活動にも力を入れていきたいと考えています。

一方、経営は、依然として厳しいものがあります。経済不況もあり、10年末の会員は501名、モニター購読者145名の計646名の個人、団体です。10年は、退会者が63名と例年以上に多く出たため、前年比で正味24名



減と大きく減少しました。一方で大口企業寄付や新規業務委託を獲得したことで、単年度収支は112万円の黒字決算となりました。しかし、これは単年度のこと、ピースデポの質を維持する上で最低限の条件である有給事務局スタッフ2人体制を維持するために、安定的に約100万円の収益増が必要な状況は続いています。一層の会員の拡大、委託業務の開拓、販売物の拡販が求められます。『核兵器・核実験モニター』など発信する情報の質を保持し、高め、ピースデポが市民社会に必要であることを理解し支えていただける人を増やし、結果として会員が増えていくという構造を作り出さねばなりません。

ピースデポ総会記念シンポジウム：



「武力は悲劇しか生まない —北東アジアに非核・軍縮の仕組みを」

左から：小笠原公子・ピースデポ理事、村越進・日弁連憲法委員会委員長、犬塚直史・元参議院議員、金孝淳・ハンギョレ新聞大記者、田巻一彦・ピースデポ副代表、高久はるか・ピースリング副代表

総会で決まった今年の主な事業計画

全文はホームページ
www.peacedepot.org/whatspd/actvty1.htm

● 基本方針

1. 核兵器廃絶に向けた国際的な世論形成への寄与
2. 「北東アジア非核兵器地帯」を促進する活動
3. 自治体と市民の連携した力を引き出す取り組みの継続
4. 軍事費を削減し、社会開発への投資を求める国際的な共同行動への関与
5. 「核兵器・核実験モニター」刊行や出版事業の一層の定着、拡大をめざす
6. 会員、支持者のネットワークの拡充と活用

● 事業プログラム

1. 核兵器廃絶への気運を具現化する世論形成への積極的関与
2. 「北東アジア非核兵器地帯」促進に向けた取り組みの強化
3. 軍事費削減を求める運動に資する調査活動の推進
4. 「核兵器・核実験モニター」の発行
5. イアブック「核軍縮・平和」の発行と販路の拡大
6. 「ピースデポ・ブックレット」、「ワーキング・ペーパー」の発行
7. 米軍、自衛隊の動向調査
8. 継続する活動

● 組織体制の整備

1. スタッフ体制
2. 運営委員会と将来計画委員会の継続
3. 会員、モニター購読者の拡大：数値目標の設定
4. 人的ネットワークの拡充・活性化に向けた施策
5. 助成金・調査受託の開拓

福島事態と核兵器

総会も終え、「イアブック2011」の編集に本格的に取りかかりつつあった3月11日、東日本大震災が起きました。その日、停電で電車が動かず、事務所スタッフ2名は、事務所に泊まりましたが、その時点では、ここまでの津波被害と、更には福島原発の重大事故になるとは想像できませんでした。福島事態は、現代文明の脆弱性をさらけ出し、原発事故としてだけでなく、産業革命以来の科学技術に依存した社会の有り様を根底から問う事態となっています。今、人類は、開けてしまったパンドラの箱の前に、軍事、政治、経済など、あらゆる側面から核エネルギー開発の歴史的文脈の中で、この福島事態を位置付け、検討する課題に向き合わねばなりません。「イアブック2011」は、遅れ気味とはいえ、6月末、何とか刊行にこぎつけましたが、気づくと1年の半分が終わっていました。2月の総会で決まった事業計画を踏まえながら、後半の事業に取り組む所存ですので、よろしくお願いいたします。■

2月26日、ピースデポ第12回総会記念シンポジウム「武力は悲劇しか生まない—北東アジアに非核・軍縮の仕組みを」を、日本青年館(東京都新宿区)で開催しました。

第1部「北東アジアのいま」は、韓国「ハンギョレ新聞」大記者の金孝淳(キム・ヒョスン)さんによる特別講演「韓国ジャーナリストの視点から」で始まりました。金さんには、韓国民主化の流れを汲み、88年に発刊したハンギョレ新聞の歴史や、昨年来の韓国哨戒艦「天安」沈没事件、延坪島砲撃事件などで緊張が高まった朝鮮半島情勢を、日本語でお話しいただきました。続いて、梅林宏道ピースデポ特別顧問による「北朝鮮核開発の新段階と私たち」、元参議院議員で、元「核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)・日本」事務局長の犬塚直史さんによる「『核の傘』を考える」の講演がありました。

第2部の「北東アジアの非核・軍縮の仕組みへの市民社会の役割」では、小笠原公子ピースデポ理事がコーディネーターを務め、金・犬塚両氏とともに、日弁連憲法委員会委員長の村越進さん、明治学院大学学生団体「Peace☆Ring」(ピースリング)副代表の高久はるかさん、田巻一彦ピースデポ副代表の5名によりパネルディスカッションが行われました。

会場からは、北東アジア非核兵器地帯や、「核兵器のない世界」の実現へ向けた、記者、議員、弁護士、学生、NGOといった、それぞれの取り組みに対する質問があり、約70名の参加者による活発な質疑応答が行われました。

(「核兵器・核実験モニター」373-4号に、第1部の詳細を掲載しています。)

< 6月30日発行! >



イアブック「核軍縮・平和2011」—市民と自治体のために

特集: 2010年NPT(核不拡散条約)再検討会議／特別記事: 福島事態と核兵器

「核兵器のない世界」に向けて、時代の潮目は変わった。期待と不安が交錯する中、ビジョンと現実のはざまに揺れる世界はどこへ向かうのか? 被爆国・日本のあるべき姿とは——?
核軍縮と平和をめぐる2010～11年の世界と日本の動きや、自治体、NGO、市民の取り組みを、解かりやすいキーワードで解説しています。ぜひ座右にご一冊。周りの方々にもお広めください!

10冊程度の預け売りや、お近くの図書館へのリクエストなどにもご協力を!

会員価格1500円／一般価格1800円(+送料)

監修: 梅林宏道／発行: NPO法人ピースデポ
発売元: 高文研/A5判、328頁

□ 47のキーワード: 核軍縮/ミサイル防衛/
米軍・自衛隊/自治体とNGO ほか
□ 市民と自治体にできること □ 36の一次資料

★ご注文はピースデポまで! ★

「核兵器・核実験モニター」で連載中のエッセー

平和文庫

「被爆地の一角から」が書籍化されました!

「核廃絶へのメッセージ—被爆地の一角から」

著: 土山 秀夫

価格1000円 (+送料)
(ピースデポ取り扱いあり)

発行: 日本ブックエース・6月25日/四六判208頁



総会への会員・助言者からのメッセージ

総会に向けて、今年も多くの会員の皆様から激励、ご提案をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。メッセージの一部をご紹介します。できるだけ多くの方のメッセージを掲載するために抜粋紹介となることをご了承ください。(敬称略・順不同)

●ピースデポの活動は、市民型の情報発信として今後さらに注目を浴びるメディアに発展するのではないかと考えています。継続して専門的な事柄を伝えていくことの価値、それによって活動を始める市民メディアが生まれることを期待しているからです。

(池田佳代)

●オバマ氏登場で空気かわったが、今は世界の流れが流動的になってきているうに、日本政府の疑問だらけの政策・方針・実行に落胆しています。NGOの力が強まることを祈念しています。

(緒方毅)

●いつも貴重な情報ありがとうございます。この分野における、日本で最も良識ある上質の情報として感謝しております。3ヶ月遅れで出るinternetでの「モニター」PDFのサービスも貴重と思います。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(片岡勝子)

●核抑止力と核の傘から離脱して、核兵器禁止条約の交渉開始を求めることが重要になっています。

(沢田昭二)

●貴会の情報は、研究教材に使わせていただいております。益々の充実を期待しております。

(杉田明宏)

●在野の核兵器問題に関する唯一のシンクタンクとして、今後の更なるご活躍を期待しています。

(土山秀夫)

●領土問題が、対米従属外交へと傾斜する契機となっているような昨今、独立したNGOの

活動はますます重要になっている気がします。政府と一線を画した「民間外交」として、ピースデポの役割は重大な気がします。

(中村幸司)

●米軍と自衛隊との連携・一体運用が進んでいますので、自衛隊情報も期待しています。

(二宮敬嗣)

●世界の権力構造が再び(1990年から20年)動き始めています。このような時代に、確たる信念で、定点観測を継続していくことこそが重要な未来の指針を与えると思います。

(八谷まち子)

●「核兵器禁止条約」の成立を期待していますが、日本国内では民主党政権の混迷と核抑止論が、核兵器廃絶への道を閉ざしてしまっています。日本がリーダーシップをとる道筋を、ピースデポの活動に期待するばかりです。

(森口貢)

●新聞一般紙やテレビ等マスコミの発信する情報に力がないと感じるこの頃です。政権交代はしたものの、期待した分「言葉もない」というのが現状のようです。そうなればもう自前の発信で頑張るしかありません。ミニコミを越える「地域マスコミ」づくりが必要ですよ。ピースデポの活動に期待します。

(市原広子)

●残念ながら出席できませんが、総会とシンポジウムが祝されることを祈念いたします。

(大田昌秀)

●以前、総会で「北東アジア、特に韓国との連帯を!」と主張した私としては、今回ハンギョレのキム・ヒョソン記者をお招きしていることや、このかん韓国の国会議員と超党派で協議の場を作っていることも大賛成です。また、お送りいただいた議案のp.3で、川崎市長が「北東アジア非核兵器地帯の促進を支持する国際署名」に署名したことを初めて知りました。ピースデポからの働きかけに感謝します!!

(小田切督剛)

●いつも質の高い情報発信に感謝いたしております。沖縄の基地問題解決のため、今後ともご支援たまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

(小橋川清弘)

●日本の安全保障にとって重大な局面を迎えています。皆様のご活躍を期待しています。私も広島から微力ながら発信を続けていきます。(中国新聞社特別編集委員兼ヒロシマ平和メディアセンター長 田城明)

●私も色々な団体に属している中で、最近の脱会する人、会費の納入など、経済的な逼迫感が強く伝わってきます。また女性は、出産、育児の手が離れて束の間、今度は介護の問題が起きてくるので、団体活動はその都度さまざまな問題をかかえて苦しみます。それでも大切な事は、誰かがやって下さらないと。どうぞこれからも体力勝負でがんばって下さい!

(湯川れい子)

●いつも私たちのために命がけで活動して下さっていることに感謝いたします。頭の下がる思いです。それぞれの所で人間を守る活動をしてくださる人々がいることを知り、「人間捨てたもんじゃない!あきらめなくてもいいよ!」と小さい子どもたちに言いたいです。

(吉野邦子)

- ① 核兵器廃絶 市民の力で ビキニデー 被爆者ら訴え (沖縄タイムス、11年3月2日)
- ② 東アジア不安定の要因 沖縄は拒否すべきは拒否を 在沖海兵隊抑止力 ピースデポ特別顧問 梅林宏道氏に聞く (琉球新報、11年3月5日)
- ③ 「抑止力はたぶらかし」 普天間問題 梅林・我部氏が講演 (沖縄タイムス、11年3月7日)
- ④ 「日米安保考えよう」 NPO代表講演 信大 (信濃毎日新聞、10年12月16日)
- ⑤ 「脱原発」なぜ必要 広島で集会 発言者に聞く 「ピースデポ」代表 湯浅一郎さん 瀬戸内なら漁業の危機 (中国新聞、11年6月20日)

核兵器廃絶 市民の力で

① ビキニデー 被爆者ら訴え

太平洋戦争の終結から70年、広島と長崎に原子爆弾が落とされた。その日、ビキニデーと呼ばれる。この日、被爆者らは、核兵器の廃絶を訴える。ピースデポは、この日、被爆者らと共に、核兵器の廃絶を訴える。ピースデポは、核兵器の廃絶を訴える。ピースデポは、核兵器の廃絶を訴える。



湯浅一郎さん

湯浅さんはオバマ政権下で「核兵器のない世界」を掲げる米国の核保有を公認され、核兵器への巨額投資が削減されることになった。湯浅さんは、核兵器の廃絶を訴える。湯浅さんは、核兵器の廃絶を訴える。湯浅さんは、核兵器の廃絶を訴える。

東アジア不安定の要因

② 在沖海兵隊抑止力

「抑止力」は、東アジアの不安定な要因の一つである。梅林宏道氏は、在沖海兵隊の抑止力を、東アジアの不安定な要因の一つであると述べている。梅林宏道氏は、在沖海兵隊の抑止力を、東アジアの不安定な要因の一つであると述べている。梅林宏道氏は、在沖海兵隊の抑止力を、東アジアの不安定な要因の一つであると述べている。



梅林宏道氏

梅林宏道氏は、在沖海兵隊の抑止力を、東アジアの不安定な要因の一つであると述べている。梅林宏道氏は、在沖海兵隊の抑止力を、東アジアの不安定な要因の一つであると述べている。梅林宏道氏は、在沖海兵隊の抑止力を、東アジアの不安定な要因の一つであると述べている。

抑止力はたぶらかし

③ 普天間問題 梅林・我部氏が講演

「抑止力はたぶらかし」は、普天間問題の核心である。梅林宏道氏と我部政明氏は、普天間問題の抑止力を、たぶらかしであると述べている。梅林宏道氏と我部政明氏は、普天間問題の抑止力を、たぶらかしであると述べている。梅林宏道氏と我部政明氏は、普天間問題の抑止力を、たぶらかしであると述べている。



梅林宏道氏と我部政明氏

梅林宏道氏と我部政明氏は、普天間問題の抑止力を、たぶらかしであると述べている。梅林宏道氏と我部政明氏は、普天間問題の抑止力を、たぶらかしであると述べている。梅林宏道氏と我部政明氏は、普天間問題の抑止力を、たぶらかしであると述べている。

アラカルト

④ 核関連情報シンクタンク「ピースデポ」代表 湯浅一郎さん(61)

核関連情報シンクタンク「ピースデポ」代表の湯浅一郎さんは、核兵器の廃絶を訴える。湯浅一郎さんは、核兵器の廃絶を訴える。湯浅一郎さんは、核兵器の廃絶を訴える。



湯浅一郎さん

湯浅一郎さんは、核兵器の廃絶を訴える。湯浅一郎さんは、核兵器の廃絶を訴える。湯浅一郎さんは、核兵器の廃絶を訴える。

広島で集会 発言者に聞く

⑤ 瀬戸内なら漁業の危機

広島で集会が行われ、発言者に聞く。瀬戸内なら漁業の危機である。湯浅一郎さんは、瀬戸内なら漁業の危機であると述べている。湯浅一郎さんは、瀬戸内なら漁業の危機であると述べている。湯浅一郎さんは、瀬戸内なら漁業の危機であると述べている。



湯浅一郎さん

湯浅一郎さんは、瀬戸内なら漁業の危機であると述べている。湯浅一郎さんは、瀬戸内なら漁業の危機であると述べている。湯浅一郎さんは、瀬戸内なら漁業の危機であると述べている。

「日米安保考えよう」 NPO代表講演

④ 信大

「日米安保考えよう」は、NPO代表講演のテーマである。信大は、日米安保を考えた。信大は、日米安保を考えた。信大は、日米安保を考えた。



信大

信大は、日米安保を考えた。信大は、日米安保を考えた。信大は、日米安保を考えた。